

豊かなことばを育もう

第3回

ことばの概念を豊かにしよう

1. 「概念」について

「概念」という漢字を、みなさんは読めますか。

読めないときは、まず自分で漢字辞典を使って調べる習慣を付けることが大切です。

「概念」は、「がいねん」と読みます。

それでは、「概念」の意味は、分かりますか。

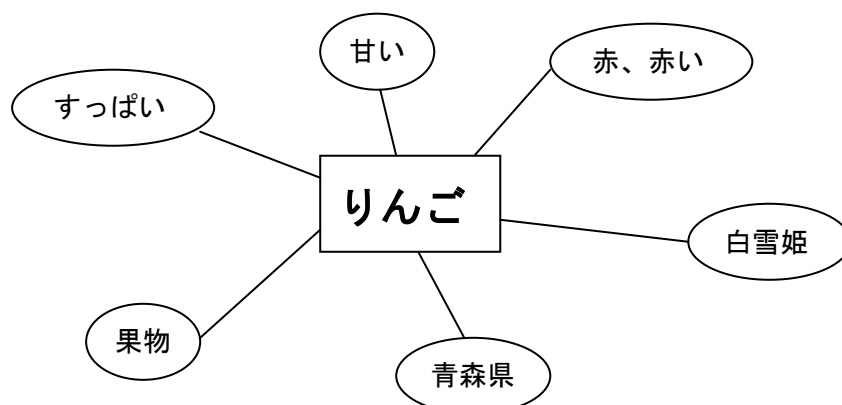
分からないときは、国語辞典で調べてみましょう。

広辞苑第4版（岩波書店）によると、概念とは、「大まかな意味内容」と書かれています。詳しく説明すると、「何か一つの物や事柄に対して、関係する意味や内容を思い浮かべること」と言えます。一つの物事から、くもの糸のようにたくさんの意味や内容のネットワークを繋いでいくと考えると、分かりやすいと思います。

2. 「概念」の具体的な例

概念について、具体的な例を出して説明します。

みなさんは、「りんご」と聞いたときに、りんごと関係する意味や内容を思い浮かべることができますね。例えば、色は「赤、赤い」、味は「甘い」「ちょっとすっぱい」、食べ物の種類は「果物」などです。もっと難しくなると、全国でりんごの生産量日本一と関係付けて「青森県」と言ったり、毒りんごが出てくる童話と結び付けて「白雪姫」と言ったりできるようになります。



3. 「概念」を豊かにしよう

みなさんは「りんご」と聞いて、どれくらいの意味や内容と関係付けて話ができるでしょうか。3個ぐらいしか繋がられない場合は、概念が豊かだとは言えません。「りんご」と聞いて10個、20個、30個、それ以上の意味や内容を繋がれるようになると、概念が豊かになったと言えます。幼小学部のみなさん、中学部のみなさん、高等部のみなさんと、それぞれの段階がありますが、自分がどれくらい意味や内容と繋がれるか、自立活動の授業等で先生と一緒に確認してみましょう。

また、みなさんのことばの概念を豊かにするためには、もちろん毎日の授業が大事です。それとともに、学校生活の中で友達や先生とのやりとりや、家族とのやりとりも、とても大切です。

保護者の皆様には、ご家庭での一つ一つのやりとりを大事にさせていただきますよう、ご協力をよろしくお願いいたします。

4. やってみよう

これまでの内容を参考にして、自分がどれくらいの意味や内容を繋がれるか、下の3つの単語から意味や内容を繋いで書いてみましょう。

また、自分が書いた意味や内容の他に、もっと意味や内容を繋がれないか、先生や友達、家族とやりとりしてみましょう。

りんご

ぞう

山形聾学校

※引用・参考文献

・松本末男（2017）平成29年7月31日・8月1日講習会資料